

新らしい毛糸編物	あみもの	編物指南	訂正編物の新型と編み方	訂正家庭編物全書	毛糸あみもの	毛糸あみもの百種	家庭最新紋染法	刺繡術指南
高野政吟代子	鳩山春子女史	石井とみ子	樋口歌代子	森本義子	石本静枝	婦人之友	小栗退治	磯村大次郎
四六八頁	四六八頁	三〇二頁	二五〇頁	三三〇頁	四六八頁	一八四頁	二六六頁	三〇四頁
一、八〇〇	二、一八〇	一、〇八〇	二、一〇八	二、一六〇	一、〇八〇	一、一五〇	一、〇〇六	一、〇二八
今日流行して居る最も新しい面白形のもの 男女子大人用品を平易な文章で親切に述あり 全部から最高技術迄誰にも秩序正しくムダの ないやうに習得されます。	全部から最高技術迄誰にも秩序正しくムダの ないやうに習得されます。	家庭百科全書第七篇、少時間の利用に及ぶものな し本書を讀めば進歩上達目に見る如し。	各宮女王殿下の御買上御台覧の榮を賜ひ既に の四版を重ねたる編物の初歩から複雑なも のに至る迄解り易く説いた手引書の權威です。	本書は編物手ほどきから基礎編方各種製法 の綴り保つて編物利用の模範的基準書です。	毛糸の知識から説き起して、幼児用品、子供 用編物の十種から説き起して、幼児用品、子供 を添へて全部寫眞版凸版入りにて説明す。	従来赤坊より大人迄百種もの、鮮明な寫眞版 と精密な圖解入り毛糸あみもの、知識の寶庫。	家庭に於て直に應用し得る絞染の方法を實驗 的に詳述せるもの、最新流行の各種絞りの 説明及圖解をも豊富に記載せり。	家庭百科全書第八篇、家庭に於ける手藝とし て重要な刺繡の技術熟達する指南役。
甲子書院	松邑三松堂	博文館	家庭生活	大倉書店	日實業社	婦人之友社	博文館	博文館

實用編物集	新型實用毛糸編物	續編物指南	摘み細工指南	新趣袋物の拵へ方	袋物の新型と拵へ方	小學生日記
成田みゆき	寺西縁子	石井とみ子	山田與松	中村興湖	藤井茂太郎	博文館編輯部
一六〇頁	二二〇頁	二九四頁	二九六頁	一四六頁	二五〇頁	二五〇頁
二、一七八	一、一三六	一、〇八〇	一、〇八〇	三、一五〇	二、二五〇	〇、四五
著者が十年前から外國の書をも参照し日本人 の體格生活状態にシツクリ適合する様な編方 を工夫された殆んど獨創的な新書。	本書は外國雜誌の譯や拔萃と違ふて日本人 の趣味に合つた新型や實用向の編物數十種を選 び寫眞數十冊を入れた極く分り易くしてある。	家庭百科全書第十二篇、編物指南に説かれ た以外、二冊相俟つて完全無缺。	家庭百科全書第十一篇、高尙にして興味多き 細工について漸く世人の注意を惹いて來た摘み 細工の形、銀貨入、舞扇、袋、宮入形手提、桔 梗、形、手提、シ、ズン、バック等總ての袋物につ いて形、手提、シ、ズン、バック等總ての袋物につ いて形、手提、シ、ズン、バック等總ての袋物につ いて形、手提、シ、ズン、バック等總ての袋物につ	趣味も深く實用向である袋物の新型や珍しい 型を澤山の選び圖解も三百挿入し寸法は鯨尺とい メ、トムの双方で記し説明も分り易くして有	児童が面白さと嬉しさの中に毎日怠らず記入 供出される様に巧みに兒童の心理を捕へた唯一の 日記、學校でも家庭でも好評噴々毎年發行	
株式會社	創生社	博文館	博文館	日實業社	創生社	博文館

英文日記	懷中日記	家庭日記	橫線當用日記	當用日記	五ヶ年當用日記	ポケット日記	ライオン當用日記	有朋堂文庫
博文館編輯部	博文館編輯部	博文館編輯部	博文館編輯部	博文館編輯部	岡崎萬月	博文館編輯部	ライオン齒磨部	
罌判及ホ ケツト形	罌判細小	罌判細小	四六判及 三六判	大罌罌判 菊半裁等	四六倍判 洋裝判	ホケツト 用各種類	罌判洋綴 五七〇頁送	
			價一、九〇五		送價二、一五〇		價一、二〇〇	
毎年當用と懷中の二種發行内容瀟洒高尙本文は歐文組常用日記は總布裝價一、一〇懷中日記博文館製價、八五	毎年各種類發行、四六半裁判に總布裝の上製細小形價、三五送料各種共、〇四	毎年發行、何れの家にも是非共備へて欲しとい日記生活改善の指導、奥様日常の相談相手博文館	中形と史長形の二種、連年發行、内容に横溢せる新氣分、運筆自由の愉快筆端に躍動す博文館	連年各種類發行凡ゆる特長を完備した全日本使用の標準日記たり價は大罌一罌中形總布裝二罌小形中長形各罌	日記多きも此日記は他に類なし五ヶ年間連續對照しつ々々記入が出来るのです。	革製の新形なり。葉書申込次第目録贈呈す。	清新なる日記の外に附録二百餘頁は宛然小百科全書の體裁を成し一部は書物としてもありんで面白く且つ有益なるべきを期しつゝあり	
博文館	博文館	博文館	博文館	博文館	日用書房	博文館	小林商店	有朋堂

叢書

古風	禪林法話集	親鸞聖人文集	日蓮上人文集	直取靈	集義和書	詔勅集	心學道話集	益軒十訓	宇津保物語
事	同	同	同	能戒 眞慨	同	同	同	同	同
土	同	同	同	眞慨	同	同	同	同	同
記	同	同	同	眞慨	同	同	同	同	同
記	同	同	同	眞慨	同	同	同	同	同
有朋堂文庫	同	同	同	眞慨	同	同	同	同	同
有朋堂文庫 天金部布製 七三〇頁送	同	同	同	眞慨	同	同	同	同	同
特殊方法に て發送す	同	同	同	眞慨	同	同	同	同	同
本邦最古の古典、苟も日本民族の源泉を知り非シトイゾム。就かなくしてはならない。	禪家の法話には吾々の精神生活の第一義論に徴した眞の活きたる教訓がある本書はその代に表的なものな遺憾なく收録してある。	他力本願の眞精神は親鸞聖人によつて我が國に於ては、本線に高鳴りして今も變らず渴仰されてゐる。本書は即ちその大文字である。	日蓮は日本の生んだ最も偉大な宗教家である。法華の行者として一代を睥睨した大聖日蓮の心血の快文字は悉くこの一巻の中にあり。	吾がシントイズムの教義は殆どこの三書に盡はれる。苟もシントイズムの本領を知らんとする者には必ず之に就かなくてはならない。	熊澤蕃山の著述中最も主要なものの一で、書簡五巻、心法圖解一巻、始物解一巻、識論九巻、卷から成つてゐる。	歴代の詔勅を謹輯したもので、列聖の臣民を愛撫し給ふた大御心は本書一巻によつて完全之を窺ひ奉る事が出来る。	心學は徳川時代に於ける平民教義として一つの大きな地歩を占めてゐる。本書はその代表的な教義の書を残らず收録したものである。	儒教主義の平穩穩健な處生訓、それを語るに平明健全な和文を以てした本書は、現代の吾々に取つても動かし難い活教訓である。	源氏物語の藍本と謂はれる貴重な文學であつて、特に校訂者武笠三氏の多年苦心の異本校訂によつて非常な善本を成してゐる。
有朋堂	有朋堂	有朋堂	有朋堂	有朋堂	有朋堂	有朋堂	有朋堂	有朋堂	有朋堂

源氏物語	有朋堂文庫	有朋堂文庫型 天金線布製 七三〇枚	特殊方法 テ發送ス	世界に誇るべき大文學、本書はその原文を最も信頼すべき首書本に據り、特に分りやすい有朋堂の解説が附してある。
狹衣物語	同	同	同	平安朝の後期に出た小説で、源氏物語を粉本として、あらはれた群小中出色なものが一つある。註解があつて分りやすく、なつてある。本邦隨筆文學の三大權威を一書に集め、かなりに詳細な註解を施し、巻末には頗る詳細な索引が附してある。
徒方枕	同	同	同	竹取物語、伊勢物語、大和物語、落窪物語、住吉物語、唐物語を集めて一巻とし、難語句、を註解したもの。
平安朝物語集	同	同	同	土佐、蜻蛉、私泉式部、紫式部、讃岐典侍、を更科、十六夜、中務内侍等の代表的日記文學、を集成し、註解を施してある。
平安朝日記集	同	同	同	徳川時代の國文家村田春海の季後集と橋千蔭のうけらが花とを収めて一巻としたもので、擬古文學の一面を代表するものである。
う琴けら後が花集	同	同	同	知行合一を完全に具現した近江聖人中江藤樹の文には、現下の吾々に取つても見通す事の出來ぬ幾多の活教訓がある。
中江藤樹文集	同	同	同	陽明學の眞精神を體現して四十七士の首領大石良雄の如き偉傑を養成した山鹿素行の大文章は、悉く本書一巻の中に收められてある。
山鹿素行文集	同	同	同	武談を通じて具體的に武士道の眞精神を傳へた本書は、吾が國特有の精神道義の活教訓として永遠の生命を持つたものである。
常山紀談	同	同	同	秋成の文は所謂擬古文ではない、彼独自の勁を簡潔の妙がある。本書は彼の各方面の文學を收めたきびくした一巻である。
上田秋成集	同	同	同	同

源平盛衰記	有朋堂文庫	有朋堂文庫型 天金線布製 七三〇枚	特殊方法 テ發送ス	山東京傳の骨董集、馬琴の燕石雜誌、種彦の用捨箱、徳川期三大小説家の考證方面を知るべき絶好の隨筆集である。
名家隨筆集	同	同	同	閑田耕筆、年々隨筆、石原正明の年に隨筆、清水濱臣の遊京漫錄、松平定信の花月草紙、何れも興味律々たる隨筆である。
源平盛衰記	同	同	同	平家物語と相俟つて更に詳細に源平興亡の跡を傳へた源平盛衰記、それに略註索引を加へて、閱讀を至便ならしめてある。
平家物語	同	同	同	祇園精舎の鐘の聲、平家一門の夢よりも、敢果ない榮枯盛衰を傳へた一編の散文詩は眞に悠長な生命を有する國民文學の一つである。
平家物語	同	同	同	軍記文學を代表すべき三種を収めて一巻とし、たのもので、保元平治の必讀書たるは勿論、九代記の愛誦に値する好個の文字である。
義經物語	同	同	同	義經の一代と曾我仇討の真相と、その二つの面白く文學を一巻の内に収めたもので、註解の索引まで附してある。
會我經物語記	同	同	同	所謂三鏡、國文體で書かれた史書として、非常に貴重なる面白く書かれた史書と、頭註と索引と相俟つて讀書子必備の一巻を成してある。
増大水鏡鏡鏡	同	同	同	南北朝の史實の權威で文學としても優に古典の一として愛誦すべき太平記全部を収め、略註の索引が附してある。
太平記	同	同	同	本邦の史論を代表すべき三種、山陽史論には日本外史、日本政記の論文全部を収め、略註が加へてある。
神皇正統記	同	同	同	同

謠曲集	有朋堂文庫 有朋堂文庫 天金部布製 七三〇餘頁 特殊方法二	觀世流改訂謠本を底本として、その内外別二百番を収め、その曲の大意と語句の註解とを加へたものである。
狂言記	同	繪入狂言記と題して元禄年間大成されたもの、本四部二十冊二百番を収めて二巻としたもの、即ち和泉流狂言の詞書である。
宇治拾遺物語	同	順徳天皇の建保年間成つたもので、作者の見聞や今昔物語古事談などを根拠として種々の見話説を書き列ねた書である。
古今著聞集	同	建長年代の書で、三十の類に分つて各方面の異聞逸話を輯録してある、當時の文學民俗を窺ふ資料として亦逸し難い書である。
御伽草紙	同	足利期から徳川の始めに及んだお伽草紙文學の一代表的なものを網羅した書で、物ぐさ太郎一寸法師浦島太郎など皆この中に在る。
新編水滸畫傳	同	支那小説中隨一の妙編大作たる水滸傳の百回挿畫は北齋の筆に係つてある。
通俗三國志	同	元の羅貫中の説に基づき、晉の陳壽の三國志を參考して漢の建寧から晉の大唐に至る百餘年間の活亂を記した歴史小説である。
通俗漢楚軍談	同	徳川時代の作家夢梅軒といふ人が廣く諸史小説を涉獵して漢楚興亡の事蹟を叙したもので、幾多の挿畫と相俟つて面白い讀み物である。
繪本西遊記	同	支那小説上に所謂四大奇書の一たる元の邱長春の著「西遊記」の譯本で、有名な孫悟空の物語は本書中にある。
雅文小説集	同	英草紙、紫野話、西山物語、本朝水滸傳、つをくし船物語、手枕といふ如き所謂雅文の小説同を集めて一巻としたもの、註解もついてある。

近松淨瑠璃集	有朋堂文庫 有朋堂文庫 天金部布製 七三〇餘頁 特殊方法二	大近松の世話物時代物を殆ど網羅して一々丸註解を附したものである。更に難語に簡明な有朋堂
淨瑠璃名作集	同	苅萱、柳、安達原、二十四孝、お染久松、彦山権現、朝顔日記、鎌倉三代記、太平記の如き有名な淨瑠璃の丸本が皆這入つてある。
平賀源内集	同	徳川時代に於て最も毛色の變つた人物であるその人の風來六々部集、ねなし草から神靈矢口の淨瑠璃までを集めて一巻としたもの。
脚本集	同	伊勢音頭、猿まはし、四谷怪談、きられ與三其他有名な脚本を集めて二冊としたもので、好劇家の逸すべからざる珍書である。
江戸名所圖會	同	名所圖會中の一番立派な代表的なもので、一代の巨匠雪且の苦心の筆によつて、江戸の面影は今も目に現るやうに分る。
日記紀行集	同	東關紀行、海道記から徳川期の日記紀行文に及んでゐる、芭蕉の奥の細道や宣長の菅笠日などにも這入つてゐる、語句の註もある。
北窓瑣談	同	橋南翁の紀行と隨筆とを集めて一巻としたものは教科書などにもよく引かれてゐる。
和風漢俗文選	同	所謂俳文の粹はこの三書に悉き、この三書を集めて一巻とし、之に註解まで加へた本書同は正に俳文の集大成だと謂へよう。
名家俳句集	同	本書の爲めに徳川期の代表俳人が編纂註解せられたもの、この中に在る。

新撰名家詩集	有朋堂文庫	有朋堂文庫型 天全書布製 七三〇餘頁	特殊方法ニ テ發送ス	徳川期のあらゆる漢詩人の作品中代表的のものを選んで一巻としたもの。卷末に附録として我國最古の詩集たる懐風藻が附してある。
新撰川柳狂詩集	同	同	同	徳川平民文學の一大分野たる川柳狂詩の一卷とした面白本である。
百人一首一夕話	同	同	同	尾崎雅嘉の著で、百人一首の歌について、作者の略傳、歌詞の解釋、逸話奇聞等を輯めた、作非常に面白い本である。
繪本太閤記	同	同	同	徳川期に於ける奇人奇行とそして生真面目學文者先生の面影と凡て集めてこの一巻中にある。窓のすきみは徳川初期から享保頃までの美談を録したもので得る所の妙くない。江戸市井の事件を同
伊呂波文庫	同	同	同	一代の風雲兒豊臣秀吉の生れ落ちてからその最後まで巨細に描寫せしめ幾多の挿畫と相俟つて英雄の面目を躍如せしめてゐる。
大久保武藏鐙	同	同	同	四十七士の仇討の側面的小説で、忠臣蔵とが面白く續なされてゐる。とは又別個の筋と
大岡政談	同	同	同	宇都宮の釣天井、松前屋五郎兵衛、彦左衛門功績之記、この三篇から成つてゐて我が快文門夫彦左衛門の面影を寫して十分なものである。所謂お家騒動の實録もので、文學としての價値は豊かなものではないが、波瀾に富んだ話の筋はさすがに面白く讀む事が出来る。
伊金護國澤女太本	同	同	同	曰く天一坊、曰く村井長庵、曰く白子屋お熊と大岡政談には興味津々たる話柄があつて今同の吾々にも面白本である。

會一醒呂利狂歌	有朋堂文庫	有朋堂文庫型 天全書布製 七三〇餘頁	特殊方法ニ テ發送ス	人口に膾炙した所謂お話しやうな話篇が數々有朋堂集められてゐる。
近代歌謠集	同	同	同	隆達小唄よしはら小唄、松の葉、松の落葉、の類を集めて一巻としたもの。
萬葉集	同	同	同	徳川時代の代表的狂歌集三種を集めたもので、重なるものがある事勿論である。
八代和歌集	同	同	同	日本古典の最高權威本書に於ては所謂萬葉假名の外に假名交りに書き下したものを入れ語句の頭註をも附してある。
新八代和歌集	同	同	同	勅撰二十一代集中の精華たる八代集に、南朝の歌集たる新葉を併せたもので、凡て吾が歌學史上の表看版ともいふべきものである。
古代歌謠集	同	同	同	記の歌、神樂、催馬樂、宴曲、朗詠等の古學を代表する一つとして貴重な書である。
山家集	同	同	同	西行、定家、實朝の歌集を集めて一巻としたもの。三人がそれと異なつた立場にあつて、我が歌學史の大立物である事いふ迄もない。
拾遺和歌集	同	同	同	加茂真淵、小澤蘆庵、香川景樹三人の歌集を代表する一巻としたものである。
石川雅望集	同	同	同	國學者にして狂文狂歌の泰斗、その筆に成つた小説隨筆狂文狂歌の類を集めて一巻としたもの。江戸氣分の一半を味ふに大切な書だ。
太田南畝集	同	同	同	蜀山人として、四方赤良として、徳川平民文學の一半を首領たりし太田南畝の狂文狂歌の本集は我が文學史上の一大金字塔である。

昔話 稻妻草 純	有朋堂文庫	有朋堂文庫型 天金蘭布製 七三〇坪 テ特殊方法ニ	稲妻表紙は山東京傳の讀み本で不破名古屋の箱を取つて芝居風に仕組んだもの。提提著有朋堂
西鶴文集 上下	同	同	西鶴の述作を代表すべき大下馬、武道傳來記、日本永代蔵、胸算用、西鶴置土産、好色五人女、その他を集めて一巻としたもの。
八文字舎本五種	同	同	八文字舎本は西鶴近松と伴つて京阪文學の一面を爲すもので、其の本質的價値はとにかく文學史上にはどうしても忘れてならぬもの。
南總里見八犬傳 自一卷至六卷	同	同	馬琴一代の大文字八犬傳全部を收めて嚴密に校訂し、挿畫も殆ど原本通り復寫してある。
近世說美少年錄 上下	同	同	美少年錄の文は馬琴には珍らしいほど自由な柔らかな趣が多い。八犬傳の堂々たる陣立とは又別の文學的情調があると思ふ。
椿説弓張月	同	同	怪傑八郎爲朝を主人公とし、琉球を舞臺として、文豪馬琴が蘊蓄を傾注した弓張月一巻には吾々の學ぶべき所が尠なからずある。
花暦 八笑 八人	同	同	太平の逸民の馬鹿げた遊樂それも儘かに徳川世相の大きな一半である。本書に收めた三卷は、その意味の徳川世相史だとも謂へる。
東海道中膝栗毛	同	同	膝栗毛は滑稽文學の隨一だ、いつ讀んでも面白いので、彌次北の東海道中には何にも最も面白いもの、彌次北の東海道中には何にも最も面白いもの、彌次北の東海道中には何にも最も面白いもの。
浮世風床 呂	同	同	江戸文學の大きな一面たる滑稽文學を代表するもの、藤栗毛と相伴つて永久に我が文學史を飾るべき一つである。
浮世風床 呂	同	同	江戸文學の大きな一面たる滑稽文學を代表するもの、藤栗毛と相伴つて永久に我が文學史を飾るべき一つである。
諺紫田舎源氏 上下	同	同	種彦の田舎源氏は草双紙の頭目である。本書はその本文を嚴密な漢字交りにして讀み易くし、挿畫もなるべく多數に復寫してある。

娘草 女節 房形 氣用	有朋堂文庫	有朋堂文庫型 天金蘭布製 七三〇坪 テ特殊方法ニ	小さん金五郎の娘節用は今日の吾々にもフンツシユの感と與へる、それに女房形氣を合はせて一巻としたもの。
黃表紙十種	同	同	繪畫本位の小説文學、黃表紙は今では寧ろ骨董として尊重せられる。本書はそれを原本のまま全部寫眞にして完全に其面影を傳へてある。
新撰書簡集	同	同	義經の腰越狀から徳川期の各方面の書翰に至るまで有名な手紙、面白、手紙を廣く集めて一巻となしたものである。
國民叢書 小林篤里	同	同	堅實なる常識正確なる知識の必要は云ふ迄もな。本書は此の目的を貫徹せん爲に全般の事項に互つて眞面目に平易に叙せるもの。
新しき修養	同	同	固苦しき修養より脱して知らず識らず身を修りて人の履むべき道に叙べたもの。俚言によ
宗教早わかり	同	同	人類の存する所必ず宗教あり。本書は世界の宗教中より十大宗教を選び、教祖、教義、今日の狀況を叙べたもの。一讀宗教の全般を知らる
立志より成功への近道	同	同	早くものにならんとする人のため社會のあらゆる方面に互つて、青年女子に絶好なる讀物。説明したるもの。青年女子に絶好なる讀物。
國民叢書としての常識	同	同	國民の一人として必ず知らねばならぬ事を選ん、一讀すべき良書、一讀大道を問歩せよ。
新聞を讀む基礎の知識	同	同	新聞は社會の教科書、讀まざる者は一人もな
國民叢書第五編	同	同	出。然るに基礎の知識なくしては解する事な
國民叢書第六編	同	同	文明國民は經濟生活の營まなくてはならぬ
經濟學の知識	同	同	原理の専門的書物の弊に鑑み經濟學の根本的

國民叢書第七編	國民叢書第八編	國民叢書第九編	國民叢書第十編	國民叢書第十一編	國民叢書第十二編	國民叢書第十三編	國民叢書第十四編	國民叢書第十五編	國民叢書第十六編
日常科學の話	偉人の修養	哲學早わかり	新しき年中行事	藝術の話	思想善導	文化生活の基調	青年の進むべき道	論理學早わかり	野球の話
小林鶯里	同	同	同	同	同	同	同	同	同
美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價
〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇
由來我國國民には科學的知識乏し、本書は吾人 らんとせざるもの、先達國民の必讀書である。 古人の残したる修養の跡を辿ること、現代人の 裏面に隠れたる修養法を選択したるもの。 人生觀の樹立は萬人の要求する所、哲學は難解 のもの、一讀哲學を全般的に補ふため、平易に述 ぶ、その一、讀哲學を施し、且つ、丁寧に解説したるもの。 藝術は人類に取つて解つて平易なものであつた。 藝術全般に互つて解つて平易なものであつた。 思想善導の急務であること、主張するべきは、 徒に六ヶ敷く堅苦しく、その目的を果さんとす 文化生活の高唱せらるる、今日世人はその基 本も辨はらない、其の基調を解し、易く叙べた 國家の中堅とも云ふべき青年が如何なる方面 の進むべきか、其の進路を示したるもの。 演説にも、談話にも、文章に常にも論理學は 基礎をなす、論理學は決して難解のものではない。 現時如何なる山間の地でも野球の行はれて居 る、野球を見れば、人の爲に解り易く述べたもの。									

國民叢書第十編	國民叢書第十一編	國民叢書第十二編	國民叢書第十三編	國民叢書第十四編	國民叢書第十五編	國民叢書第十六編	國民叢書第十七編	國民叢書第十八編	國民叢書第十九編	國民叢書第二十編	國民叢書第二十一編	國民叢書第二十二編	國民叢書第二十三編	國民叢書第二十四編	國民叢書第二十五編	國民叢書第二十六編
斯の如き人は成功する	心理學の話	婦人の進むべき道	理想の家庭	教育學の話	倫理學の話	平凡道徳	精神修養	向上發展の基礎	佛陀の福音							
小林鶯里	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	美四表六装判送價	
〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	〇四〇	
成功すべき人はどこかに秀でた性質を持つ べき性質を抽象して述べた物、成功者の福音 吾々にはまづ自分自身を知らなくてはならぬ に叙述して、國民一般に心理學を了解させ得ら る、 古來の習慣にのみ囚はれて来た婦人は一日も 早く之を平易に叙述し、婦人の進路を示す。 本外來思想の消化に苦む我國人は家庭の改善 的、家庭を建設するの好資料として著したるもの。 文明人に取つて教育は大切なる仕事、多量に 人々に教育の何であるか、知識を授けやうとしたもの。 人倫の道は總ての根本である。倫理は學者の あつた。學問ではない、國民一般の心に得べきことである。 道は總て近き中にある。徒らに遠きを望むべき ではない。平凡なる中に人倫の眞理を見つけたる物。 この平凡なる中に人倫の眞理を見つけたる物。 物質萬能の世の中は、精神修養の必要を説き、現 代に力強く生きんとする方途を述べたもの。 向上發展の方法には色々あるが、その根本と なるものは基礎となるもの、一つである。 本書は、その基礎を述べて向上へ導かんとす。 佛陀の教は深遠である。吾々の日常生活に正 言し、進路を示したるもの。本書は抄録す。																

544
75

國民叢書第二十七編 基督の福音 小林鶯里 四六六頁 送表裝 四〇四	國民叢書第二十八編 無線電話早わかり 同 四六六頁 送表裝 四〇四	國民叢書第二十九編 無線電話の知識 同 四六六頁 送表裝 四〇四	國民叢書第三十編 世界の格言と警句 同 四六六頁 送表裝 四〇四	國民叢書第三十一編 家庭科學の話 同 四六六頁 送表裝 四〇四	國民叢書第三十二編 普通選舉の話 同 四六六頁 送表裝 四〇四	國民叢書第三十三編 政黨早わかり 同 四六六頁 送表裝 四〇四
信仰は吾々の精神生活の根柢である。本書は、その最も優れたるもの、吾々に必す要なるものを抄録したものである。一讀を望む。	最近無線電話の流行は目覚ましいものである。本書は、何人にも解り得る、圖を多く入れた平易な、無電の原理及び装置を述べたものである。	無線電話に関する書物は澤山あるが、何れも難解の弊がある。本書は、無電に關するあらゆる疑念を明かにし、無電の知識全般を述べしむ。	古今東西の格言、警句を収め、先哲偉人が如何なる事を絶叫したるか、歴史的研究する。資料とし、一には日常の修養に資せんとする。	吾々が日常遭遇する自然現象の中で、家庭生活に最も密接な關係のある項目を選び、平易な物釋を施した。科學の常識として、必得べきもの。	多年政界の大問題としての普通選舉法は、愈々實施せられる事になつた。本書は、普通選舉の總てを説きしもの國民たるもの、一讀を奨む。	政黨は政治と離れる事の出来ない關係をもつてあるものである。本書は、解り易く政黨全般の說明を施したもので、國民たる者の必讀書。

大正十四年六月十二日印刷
大正十四年六月十五日發行

發行所 東京市日本橋區
本材木町二丁目

東京書籍商組合事務所
電話 大手八二二番
振替東京三一〇〇三番

◇大正十三年調査
全國小學校名簿

全國及植民地の小學校名、所在地、設立種別、學級數、加設科目、補習科、高等小學校等を一目直に窺ひ得る様編纂したるものにて、此の出版物は他に絶對になさことを明言す

◇本組合の機關雜誌
出版界の羅針盤

出版界の羅針盤として定評ある本誌は、毎號出版界の情報を掲げ、新刊圖書を網羅し且各店の目錄廣告を登載す、讀書家及書籍業者唯一の便益雜誌!

全國書籍商名簿

本書は全國各府縣の書籍業者の住所氏名を登載す、宣傳用若くは交通用として必要のもの!

定價 月刊 一元
一年 十元
半年 六元
三個月 三元
送表裝 一元
送郵費 一元
送印刷費 一元
送紙張費 一元
送印刷費 一元
送紙張費 一元
送印刷費 一元
送紙張費 一元

東京市日本橋區本材木町三〇〇番
東京書籍商組合事務所

544
75

(叢書)

六〇四

國民叢書第二十七編 基督の福音 小林鶯里 四六判送 〇四〇 信仰は吾々精神生活の根柢である本書はキリストの言葉の中最も優れたもの一讀を望む。	國民叢書第二十八編 無線電話早わかり 同 一四六判送 〇四〇 最近無線電話の流行は目覚ましいものである。本書は何人にも解り得る図を多く入れ平易に無線の原理及び装置を述べたものである。	國民叢書第二十九編 無線電話の知識 同 一四六判送 〇四〇 無線電話に関する書物は澤山あるが何れも難解の弊がある。本書は無線に關するあらゆる疑念を明かにし、無線の知識全般を述べしむ。	國民叢書第三十編 世界の格言と警句 同 一四六判送 〇四〇 古今東西の格言、警句を収め、先哲偉人が如何なる事を絶叫したるか、歴史的に研究する。資料とし、一には日常の修養に資せんとする。	國民叢書第三十一編 家庭科學の話 同 一四六判送 〇四〇 吾々が日常遭遇する自然現象の中で家庭生活に最も密接な關係のある項目を選び平易な解説を施した。科學の常識として心得べきもの。	國民叢書第三十二編 普通選舉の話 同 一四六判送 〇四〇 多年政界の大問題となつた。普通選舉法は愈々總てを説きしもの國民たるもの一讀を奨む。	國民叢書第三十三編 政黨早わかり 同 百四六判送 〇四〇 政黨は政治と離れる事の出来ない關係をもつてあるものである。本書は解り易く政黨全般の說明を施したもので國民たる者の必讀書。
--	---	---	--	--	--	---

大正十四年六月十二日 印刷
大正十四年六月十五日 發行

發行所

東京市日本橋區
本材木町二丁目

東京書籍商組合事務所

電話 大手八二二番
振替東京三一〇〇三番

東京市日本橋區本材木町二丁目十六番地 善八
編輯兼發行者 小林 善八
東京市小石川區久堅町百〇八番地 印刷所
印刷者 博文館印刷所

◇大正十三年調査

全國小學校名簿

全國及植民地の小學校名、所在地、設立種別、學級數、加設科目、補習科、高等小學校等を一目直に窺ひ得る様編纂したるものにて、此の出版物は他に絶対になきことを明言す

定四六判千餘頁
送料 内地十五錢
送外 十二錢

◇本組合の機關雜誌 出版界の羅針盤

圖書月報

每月一元
一年十二元
送料 共六十六錢

出版界の羅針盤として定評ある本誌は、毎號出版界の情報を掲げ、新刊圖書を網羅し且各店の目錄廣告を登載す、讀書家及書籍業者唯一の便益雜誌!

全國書籍商名簿

全一冊五百頁
送料 六十六錢

本書は全國各府縣の書籍業者の住所氏名を登載す、宣傳用若くは交通用として必要のもの!

東京市日本橋區本材木町三〇〇番地 東京書籍商組合事務所



544
75

終

